

令和6年度投稿

俳句

(二月)

桜島 薄化粧して 春を待つ

(城山 無記名)

桜島 春のはごろも 巖かに

(城山 レイナ)

渋滞の 静けさ雪の 桜島

(城山 無記名)

ジャズと雪 薩摩の朝日 向こう岸

(維新 やんびん)

太古より 守りし大地の 奇跡かな

(城山 観光課の佐々木)

冬空の 夕日に染まる 桜島

(城山 ミーあー)

水面には 光る島津の 意思きらり

(仙巖園 みさかわちい)

かすみあり 猫と城山 ほのかな寒気さ

(城山 コロツケクッカー)

川柳

(二月)

砂湯をね 砂湯と読んで 大笑い

(維新 レイナ)

にっぽんの 冬桜島 夕焼けに

(城山 みーあー)

桜島 上がるは雲か 噴煙か

(城山 ばなみ)

短歌

(二月)

城山や 我が恋心 冬晴れに

静かに華やぎ そつと揺蕩う

(城山 NAOTO)

天高く そびえる桜 穴深く

蒼き美空も 染める白雲

(城山 抹茶飴)

怒っても 逆らえないと 気付く時

ここらでよかと 隆盛は言う

(城山 宮原昴也)